

滋賀県立高等学校在り方検討委員会企画作業部会会議の結果概要について

1 会議の日時等

開催日時 令和3年1月15日(金)9時30分～11時10分(教育委員会室)(Web会議)
出席委員 原 清治 大野裕己 炭谷将史 高野裕子 中山郁英

- ◇これからの県立高等学校の在り方について
・中間まとめ(たたき台)

2 委員からの主な意見

■現行再編計画について

①	現地調査をしてみて、県立高校の特色化の努力により、再編計画が実施できたと思う。地域との連携・協働については、もう少し総括があっても良いのではないかな。
②	「計画策定時における地域の理解やコンセンサスを得ることに課題」とあるが、前回の再編計画では、狭い範囲の人たちで議論されていたように思う。もう少し議論の範囲を広げる必要があるというような文言があった方が良いのではないかな。
③	「計画策定過程での地域への丁寧な説明が必要」とあるが、「丁寧な説明」というのは、すでに決まっているものを伝えるという印象がある。双方向性のやり取りや、地域側からもアプローチできるような書き方をしてもらおうと良いのでは。
④	地域と連携・協働して高校を魅力化しようとする場合、計画を策定する中で地域を取り込んでいく必要があるのではないかな。
⑤	計画策定のプロセスとして、地域を巻き込む必要がある。
⑥	多様な生徒が多い中、定時制高校など学校の取組に保護者の満足度は高いと感じている。
⑦	生徒の多様なニーズへの対応は現地調査で確認できた。やってきたことを総括として、もう少し書き込んで良いのではないかな。
⑧	総括が一続きの文章でまとめられているが、小項目に分けた方が分かり易くなるのではないかな。再編の目的に対して、出来たことが何か、出来なかったことが何かをシンプルに整理したほうが良いのではないかな。
⑨	今までから魅力ある学校づくりを進めていただいているが、それが必要なところに届くような発信力が大切ではないかな。「魅力化を継続して進めていく必要がある。」とあるが、「魅力化を継続して進め、発信していく必要がある。」とする方が良いのではないかな。
⑩	高校1、2年生へのアンケートで、在籍している高校の満足度が82%というのは非常に高い数字だ。生徒のニーズにあった学校づくりができているということも書き込んで良いのではないかな。
⑪	全県一区制度は滋賀県の強味であり、この制度のもとで各校の魅力化は進んでいると思う。
⑫	学校規模が大きいということは、学校活力を生む原動力であるが、大きな規模と小さな規模の学校どちらもあってよいのではないかな。学校のサイズ感を統一する必要はないのではないかな。この辺りも総括の中に盛り込んでもらおうと良い。

■滋賀の県立高校づくりのコンセプトについて

①	「滋賀」に学ぶ×「滋賀」で学ぶ のかけるの記号がバツのように見えるので、×の記号ではない方が良いのではないかな。
②	「生徒数減少」にアンダーラインがあるが、他のアンダーラインを引いてある内容と合わせるなら「人と人がつながる活動の充実」の方にアンダーラインを引くべきではないかな。
③	「見える化」は発信の手段であり、ここまで書く必要はないのでは。「魅力と活力ある学校づくり」で良いのではないかな。
④	この場合の「見える化」はコースや類型等でしっかり示そうということではないかな。もう一言押すかどうかの問題ではないかな。
⑤	「見える化」という表現に違和感がある。「魅力と活力ある学校づくりを明確化する」というような表現が良いのではないかな。これからつくっていくニュアンスがあると良い。
⑥	自分は「見える化」はよく使っている言葉で、違和感はなかった。
⑦	「教職員の教育力の向上」という言葉は昭和の時代から言われていること。今の時代にマッチする言葉になると良い。学び続ける教職員、それが生徒の学びを支えるというニュアンスが入ると良い。
⑧	普通科の特色化については文部科学省でも議論がされている。これをどのように入れ込んでいくか。検討委員会でも議論が必要になるのではないかな。
⑨	とりあえず普通科という進路選択の現状があり、普通科の特色化は必要である。
⑩	I C Tの活用は位置づけが低いのではないかな。もっと上位のところにもってくるか、横串的なものとして、これが前提になるというような形が良いのではないかな。
⑪	最初の3行の部分は議会から読みにくいのではという指摘があったとのことだが、その部分も含め、文言修正はいくつかが必要だが、全体の流れはこれで良い。

■取組の方向性について

①	生徒にとっては、体験活動が経験となり宝となる。フィールドワークや外部と連携した活動や学びはキャリア教育の大きな部分を占めるのではないかな。
②	地域との連携を進めるうえで、コンソーシアムの構築というのは必要ではないかな。ただし、教員の働き方改革とのバランスが必要。
③	地域とのつながりを持っている教員とそうでない教員がいるので、人に閉じないで、市の人材バンクなど、コーディネーターやコンソーシアムなどの地域との連携を進める基盤は大切。
④	探究的な学習というのが重要なポイントとなる。これからの大学入試その方向に向かっていこう。探究活動を重点化する学校があっても良いのではないかな。
⑤	普通科の特色化の関わりとして、意見聴取の記述で、大学生などに全県一区制度で良かったという意見が多く、今さら全県一区をやめられないだろう。国際バカロレアのような特色をマグネットとして南から北へという流れもある。
⑥	湖北地域では南の高校に進学する生徒が多いという話をよく聞く。しかし全県一区をやめて、制度的に地元にとどめるというより、そういう状況でも選んでもらえるような学校づくりが大事だと思っている。魅力化していく上で、学校が所在する自治体が関わっていくことが大事ではないかな。
⑦	地域と連携という言葉だけではちょっと弱い印象がある。生徒はお客さんではなく、ともに汗を流して参画する意味を込めて「連携・協働」とする方が良い。お膳立てしたところに生徒が参加するだけではいけない。最初から参画するほうが良い。その方が地域の活性化にもつながる。
⑧	各学校の校長に、こんな学校にしたいというアイデアを聞き取るということも大事ではないかな。現地調査でそれぞれの学校の校長先生と廊下で最後に立ち話をする、ものすごくよいアイデアを持っておられる。そういうものを吸い上げる機会も必要ではないかな。

⑨	生徒が減少する中で、中学生にどんな学校に行きたいのか聞くことも1つ。
⑩	普通科の特色化のところにこそ、地域の大学との連携やコンソーシアム等の学校を支援する基盤について書き込む必要があるのではないか。
⑪	大学との連携についての書き込みが弱いように思う。
⑫	地域とともにある学校づくりに関してコミュニティ・スクールというような文言がどこかで入れれば良いと思う。
⑬	I C T機器は一種の文房具となっている。小中学校では一人一台の端末が配備されている。そんな状況で県立高校の現地調査ではI C T環境が弱いと感じた。この点では県立と私立の差も大きいように思う。
⑭	学校経営に関して、三つのポリシー（グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）について、明確化していくこととそれをどのような条件整備で行っていくか書き込むべきではないか。

■将来を見据えた整理、基本方針策定後の進め方について

①	私学との関係の議論も必要であり、これからは公私の比率も見ながら、連携の協議はある程度必要になってくるのではないかと。魅力化についても私学とバランスを取りながら進めていく必要があるのではないかと。
②	高校の魅力化に対して、入試制度がどのようにからむのかが大事。例えば、数学的素養が必要となる特色ある学びをしようとするなら入試の数学の割合を増やすとともありうる。
③	魅力化プランとはどのようなものか。 → この学校はこういう特色を持たせるということを、ある程度、全県的に一貫性をもって示すというイメージを持っている。
④	県教委よりも学校側の部分として、教職員の主体的な関わりが大切である。管理職や教員には異動がある中で、その学校のあるべき姿とか目指す姿を誰が見守っていくのか。そのあたりのことも考えていく必要がある。
⑤	産業教育審議会の議論の報告も聞きながらになるが、職業系の高等学校の特色化についても、どう進めるかということも示してもらい議論したい。
⑥	滋賀県全体から生徒を集める学校がある一方で、地域と密着している学校もある。学校の実情に配慮し考えていく必要がある。是非、各校長先生が自分の学校をどうしたいと思っているのか、校長の意見というものをもっと聞くべきだと思う。また、教職員としてどう思っているのか。あるいは教職員がこの改革に対してどのくらい意欲を持って取り組もうとしているのかということは大事な視点ではないか。
⑦	各学校の生の意見、声みたいなものをまとめていただいて、将来に向けてのアイデアやどんな構想があるのかについて資料を作ってもらいたい。

3 今後の予定

◇第4回滋賀県立高等学校在り方検討委員会の開催 2月16日（火）9:30～11:00

《主な内容》

・中間まとめ（素案）について